

往昔<sup>ヨリ</sup>土佐国ハ一條殿国也、

元龜三壬申年宇和郡ノ領主西園寺公廣ノ豫州戸嶋ノ

城主法花津播摩守則延ノ伊豫宇和嶋郡宇和嶋居城ハ

○天正年中戸田民部少輔ノ後○又藤堂和泉守高虎居

ス○又慶長十三年富田信濃守延国居ス○又十九年伊

達遠江守秀宗・同遠ノ江守宗利居ス○明曆三年宮内

少輔宗純三万石配分ノ元禄九年三万石新田改土、

都合十万石再代々領之、ノ則父法花津播磨守者於豫

州宇和嶋領之、ノ戸嶋ヲ令拜領者也、其后法花津之

苗字ヲ密而ノ地松浦ニ有リ成松之氏家、從其迎嫁ヲ

而成松氏ト改ル也、ノ其昔古市村梅峰城主惟治公大

永七年中落城ノ之後ニ七十年余ノ間、大友豊後守・

福原左馬助・ノ太田飛彈守三代之成ル預所ト、又後

慶長六年ノ靄谷之城主毛利伊勢守藤原高政公ノ御入

国ノ節者嫡子又右衛門ニ讓リ庄官并家督、ノ法花津

右衛門祐ハ致隱居而當□一字於<sup>テ</sup>有<sup>ル</sup>ヲノ致再建置

キ而登リ京都ニ於黒谷ニ戴キ剃髮ヲ而ノ承次宗脉

即浄土宗惣本山知恩院末ニ願上ノ相濟而藏應山無量

宝院興養福寺ノ得<sup>テ</sup>称号之免許ヲ帰国之後ニ開基<sup>ト</sup>

成者也<sup>上</sup>巳

表紙解説

木造不動明王坐像

米水津村宮野浦

大火炎うず巻相を背にする総高約二米の不動明王はいかにも大盤石のすがたを秘めている。

頭の頂きには、蓮華をかたどった大きめの莎髻<sup>しやけい</sup>というか、花がたに髪を結ったかたちに刻んでいる。髪は巻髪とし、太目のまばら彫りを示し、弁髪を左肩の前にたれ、面相は正面を見る。上下に歯牙をあらわし、左手はその手先を外方に張って掌を仰いで霸索をとり、右手には宝剣を持っている。(霸索は後補か)近年彩色したもので黒・赤・金色に輝いている。

写真並びに説明 軸丸 勇